
秋に憂う男

ラックラック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秋に憂う男

【Nコード】

N5329P

【作者名】

ラックラック

【あらすじ】

ある男の散歩中の独り言。

秋というものは、焼けつくような暑さも無く凍てつくほどの寒さもない人にとつて実に過ぎやすい季節である。春でも言えることではあるが、寒さから暑さへと移行する間では温かみを覚える体は安らぎと共に眠気まで訪れてしまう。秋はその逆と言えよう。春は、何もしない事が一番であると考え。あくまで私の持論にすぎない訳なのだから、大層な事はない。唯の気の持ちようなのである。

私は散歩が好きだ。人が衣服を着こむ変化のように、植物たちもまた似たような変化をする。だが人とは逆に、着飾っていた緑を脱ぐ為の準備にしか過ぎない。しかし、その準備の段階が我々人にとつて毎年感動をくれる。夏に瑞々しく華やいでいた緑は、秋には色を変え羽衣を散らす。街道に立つ木々も季節にそつてその行為をする。道はそれぞれ特有の葉の色葉の形で染まり、今までと違う雰囲気を作れ出す。華やかでもあり、そして憂いも感じる。赤や黄色は温かさ快活などの元気なイメージを持つが彼らの放つ色にはそうは感じさせない。不思議である。極僅かな時間だけ身着くお洒落をすぐさま脱ぎ去る気分はどんなものであろうか。その先の冬を過ごす木々を想像すると寂しくなるからだろうか。いずれにせよ、彼らは一年を全うする為に決められた行為を繰り返すだけだ。私もそれは同じ、季節によって決められたように動くのみ。秋にこうして彼らを眺めるのも、また然り。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5329p/>

秋に憂う男

2010年12月17日00時16分発行